

審判員派遣報告書

派遣事業名	第53回 全国ミニバスケットボール大会	派遣期日	令和4年3月27日～3月30日
報告者	高田 開	派遣先	代々木第一体育館・第二体育館

1. 大会概要

大会名称	第53回 全国ミニバスケットボール大会	大会期間	令和4年3月28日～3月31日
大会概要	男女各都道府県代表チームによる4チームリーグ戦。		

2. 担当試合

日程	令和4年3月28日	会場	代々木第一体育館
審判クルー	CC：天久 氏（沖縄） U1：高田		
担当試合	（女子）宮城県 vs. 富山県		
試合内容	序盤富山がシュート力を活かしてリードを作るが、第2Q以降、宮城も1vs1を中心に得点を重ねゲーム終盤にフリースローで同点に追いつく。勝負は引き分け終了。		

日程	令和4年3月29日	会場	代々木第一体育館
審判クルー	CC：鶴見 氏（石川） U1：高田		
担当試合	（女子）大分県 vs. 埼玉県		
試合内容	登録9人で戦う大分に対して、高さと高精度のシュートで埼玉が序盤から大量リードを奪う。後半はお互いアグレッシブなDFを見せ互角だったが、前半のリードを保った埼玉が勝利。		

日程	令和4年3月30日	会場	代々木第一体育館
審判クルー	CC：松崎 氏（茨城） U1：高田		
担当試合	岡山県 vs. 青森県		
試合内容	前半は一進一退の展開、第3Q青森が積極的なアタックから点差を広げる。岡山もプレスDFで流れを引き戻すがファウルトラブルが響き、青森が逃げ切る。		

3. 大会（研修会）を通して

○ 3月28日担当ゲーム（女子）宮城県 vs. 富山県

2POであったため、必然とトレイルのカバレッジが広がるが、ただボールに合わせてポジションを変えることが良いわけではないと学んだ。すなわち、2POにもトレイルのベーシックポジションが存在し、いくらカバレッジが広いとしても、安易にベーシックポジションから外れてプレーを追うことは、オフボールのカバレッジが弱くなったり咄嗟のプレーに対応できなくなったりとミスの原因になると感じた。

配信映像を使ってその日の夜に県内レフェリーと、また翌日にクルーと難しいケースの検証ができたことが、大会期間中にメカニクス、プレーコーリング等アジャストできた大きな要因の一つだと感じた。

○ 3月29日担当ゲーム（女子）大分県 vs. 埼玉県

両チームのメンバー表と前日のゲームをチェックし、埼玉に高さと人数的アドバンテージがあることをあらかじめ共有しゲームに臨んだ。おおよそのゲーム展開と予測されることをPGCで確認し、実際にその予測通りの展開となったため、メカニクスや判定の微調整ができたと思う。全国大会2日目以降であれば、前日のゲームからスカウティングができるため、これは香川インターハイでも行うべき準備であると感じた。

○ 3月30日担当ゲーム（男子）岡山県 vs. 青森県

ミニバスのゲームは24分間しかなく、前半は下級生も出場することが多いためテンポセッティングが非常に重要になると感じた。同じプレーに対して同じように判定を積み重ねていくこと、良いプレーを残し（賞賛し）、イリーガルなプレーに対しては一貫性をもってコールし続けることが、ゲームの質を高めると改めて感じた。

今大会の開催にあたって、TOに都内の大学生の協力があり、MCも各県から派遣で来られていたり、たくさんの方の支えのうえに一つのゲームがあることを改めて実感した。私自身も審判員という立場でその一部分として関わられたことに感謝したい。

○ その他大会を通して学んだこと

全国大会ともなれば単に「プレゼンがきれい」というレベルはもはや最低限であると感じた。求められるのはプレーコーリング、メカニクスであり、これらをシンプルに、ベーシックに実践したうえでそれを表現する術としてプレゼンスが存在することを実感した。

4. その他

この度は、コロナ禍で様々な障壁があるなか、私を全国ミニバスケットボール大会に派遣いただきまして誠にありがとうございました。仲地審判長、大森U12審判長をはじめ、日ごろお世話いただいております皆様に深く感謝申し上げます。

香川インターハイを約4か月後に控え、これから一層本格化する準備に、昨年の群馬全中で学んだこと、今大会派遣いただいて学んだことを活かしたいと思っております。審判技術の向上を図りつつ、大会成功に向け尽力して参ります。